

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛しました。わたしの愛にとどまりなさい。

15:10 わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。

15:11 わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。

15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

15:14 わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。

15:15 わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命しました。それは、あなたがたが行って実を結び、その実が残るようになるため、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです。

15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、わたしはこれを、あなたがたに命じます。

御父とイエス様の愛の関係が、そのままイエス様と私たちの関係になるように、イエス様は愛してください。ですから、私たちもイエス様を愛するのです。自分のために命を捨ててくださり、今もその同じ愛で助けてくださる方を、心から愛していないとするなら、その感覚はどこか麻痺しているかもしれません。私たちは当然イエス様を愛しています。共にいたいし、喜ばせたいと思うでしょう。ですからイエス様の「戒めを守る」のです。

その戒めとは「互いに愛し合うこと」です。すべての律法は「愛する」ということで完成するのです。ではどのように愛するのでしょうか。それはその人のために最も大切なものを差し出して、あげてしまうということです。

最も大切なものは「いのち」ですが、イエス様はその命を愛する私たちに差し出して、つまり十字架にかかって「捨て」てくださったのです。私たちも、誰かのために大切なものを差し出すことは、幸いの原点です。その人の幸いでもありますし、「受けるよりも与える方が幸い」という真理によって、私たちも幸いなのです。

それが出来る人はクリスチャンとしての価値観を持った人です。イエス様はそのような「命じることを」行う人を、「わたしの友です」と言ってくださいます。イエス様の友となりましょう。

そのような友は、イエス様から「父から聞いたことを知らせて」いただけますし、イエス様の「名によって求めるものは何でも」与えられるのです。

「互いに愛し合うこと」という戒めを、イエス様への愛のゆえに、喜びと真心をもって行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

